

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6-25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

明星院だより



元旦

乙巳

令和七年の
年頭にあたり
謹んで新春を寿ぎ
お慶び申し上げます

巳歳守り本尊

晋賢菩薩



「お接待」の心を 忘れない。

来客がある時、ごご家庭でも掃除をしたり、お茶・お菓子を用意したり、来訪が夜になるならば、お酒と料理の支度をしたりと、忙しく動きまわるでしょう。いろいろなお客さんに気持ちよく過ごしてほしいという気持ちのあらわれで、わかりやすい言葉でいえば「お・も・て・な・し」です。四国では、地元の人たちが、お遍路さんに親しく話しかける姿をしばしば目にします。初対面のお遍路さんですから、ごこの誰かもわからないのに……。

なぜ、そんなことができるのかといえは、お大師さまの心を伝えているからです。お大師さまが四国の地を歩いていらっしゃる時、その地の人たちは食事を差し出したり、宿を用意したりしました。その心は現代にも引き継がれ、「お遍路さんを手助けしたい」という気持ちで、飲み物や食べ物をごちそうしたり、泊まる場所を提供するという厚意になっているのです。

お大師さまは、こんな言葉を残しています。「遍く平等の法雨を灑いで、早く妙覚の根香を熟せしめん」
これは「広く分け隔てなく仏法の雨を降

りそぞぎ、すみやかに悟りの種を発芽させたいものだ」という意味で、多くの人を幸せに導きたいという思いでしょう。
令和六年の元旦、北陸・能登地方を地震が襲い、たいへん大きな被害が出ました。道路は各地で寸断され、上下水道が使えない状態。消防、警察、自衛隊や医療チームが派遣されましたが、元の生活に戻るまでにはまだまだ長い年月がかかると伝えられています。
各地からボランティアも訪れています。現地はたいへんな状況が続いていることですが、被災した方々は、不安を抱えたうえに、さぞかし不便を感じているでしょう。
そうしたなかで「被災した輪島朝市が金沢で出張朝市を開いた」とか、「被災地域の伝統工芸品が人気を集めている」といったニュースなど、復興に結びつく動きも伝えられています。
大きな災害の後、現地には行けなくても、自分の力の範囲で、何らかの支援ができるのではないのでしょうか。
その行動の根底には、「おもてなし」や「お接待」の心に通じるものがあるように思えます。

お四国詣りご報告

第十期第二回巡拝
伊予・土佐之國

閏年の本年は、伊予の一部と土佐霊場を逆打ちし、金剛福寺では特別に三面千手観音像を開扉下さり尊像のお姿を拝ませて頂きました。竹林寺では、海老塚住職のご法話を拝聴し、感謝のうちに南国土佐を後にしました。



第31番 竹林寺にて



第38番 金剛福寺本尊

《只今募集中》

《四国遍路》伊予・讃岐

大師堂再建御礼参りの旅

◇日程 四月十四日(月)～四月十八日(金)

◇定員 十五名

◇会費 十三〇,〇〇〇円

◇申込 三月十五日までに当山へ

(但し、定員になり次第締め切ります)

巡拝日程表	
4/14 (月)	広島駅==<山陽道・しまなみ海道>==56) 泰山寺==57) 栄福寺58) 仙遊寺==59) 国分寺==55) 南光坊==昼食==54) 延命寺53) 円明寺==52) 太山寺==道後温泉(泊)
4/15 (火)	ホテル==51) 石手寺==61) 香園寺==62) 宝寿寺==63) 吉祥寺60) 横峰寺==昼食==64) 前神寺==65) 三角寺==観音寺温泉(泊)
4/16 (水)	ホテル==66) 雲辺寺==67) 大興寺==68) 神恵院・69) 観音寺70) 本山寺==昼食==71) 弥谷寺==72) 曼荼羅寺==73) 出釈迦寺74) 甲山寺==76) 金倉寺==75) 善通寺(泊)
4/17 (木)	宿坊==77) 道隆寺==78) 郷照寺==79) 天皇寺==80) 国分寺81) 白峰寺==82) 根香寺==昼食83) 一宮寺==84) 出釈迦寺庵治温泉(泊)
4/18 (金)	ホテル==85) 八栗寺==道の駅==86) 志度寺==87) 天皇寺88) 大窪寺==昼食==<瀬戸大橋・山陽道>==広島駅

※巡拝の順序や旅程は、道路事情、天候等により多少変更されます。

令和七年

明星院行事予定表

一月一日～三日	修正会・新年初祈祷
二月二日	開運厄除祈願節分星祭
三月二十日	春季彼岸会
四月十四日～十八日	四国八十八ヶ所霊場巡拝
八月上旬	お盆勤め
八月十三日	うら盆施餓鬼会
九月二十三日	秋季彼岸会
十一月十八日～二十日	高野山・京都参拝 (御詠歌大会鑑賞)
十二月十四日	赤穂義士討入り大祭

奉納御礼

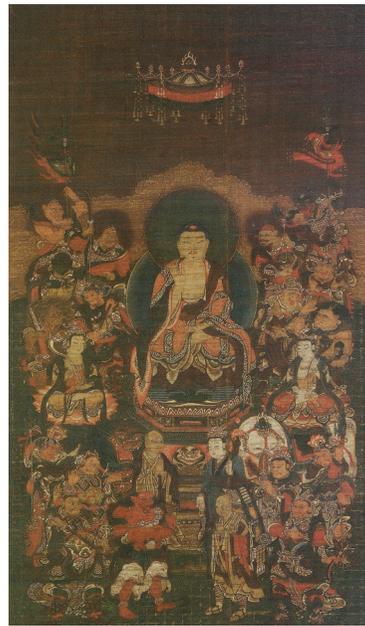
浅野家御当主長孝様より牛田の邸宅で来客用に使用されていた座布団二十枚をご寄進いただきました。

編集後記

☆「今はただ慎むべしと初みくじ」
☆本年は、毛利輝元公没後四〇〇年に当たります。当山には、広島城築城の輝元書状が現存しております。
☆昭和四十九年十一月二十三日に本堂落慶法要が厳修されて五〇年となります。
その当時は、オイルショック、三次の大水害、新幹線工事の為、資材の調達も思い任せず大変な苦労であったと先代からよく聞かされました。
☆五日は寒の入り皆様の御自愛をお祈り致します。



縮景園屏風



寺宝釈迦十六善神像

庫裡・庭園を公開



抹茶の接待



望月玉泉のふすま絵



先師二十三回忌を厳修
十月三日午前十一時より、先師龍生大和尚忌法要が、薬師寺鈴木宏教住職御導師のもと法縁寺院や親族縁者参列のもと厳修されました。

去る十月十三日、無事修復を終えた不動明王像と十一面観世音菩薩のお姿を間近に拝んで頂く行事が執り行われました。ご志納賜った檀信徒の皆様には、先ず護摩堂で護摩祈願が行われ山主が加持文奉読に続き御芳名を声高らかに読み上げ奉告法要を厳修しました。続いて会館ではそれぞれの尊像とその由緒書きや浄書された施主名、併せて焼失を逃れた仏画等をご覧いただきました。更に場所を庫裡に移動し特別展示の寺宝釈迦十六善神像(広島市重文)やふすま絵・屏風・庭園を觀賞しあと抹茶の接待で小憩し記念の特別お守授与の後解散となりました。

伝弘法大師御筆
不動明王像
・
十一面観世音菩薩修復開眼法要



護摩祈願法要



加持文奉読の山主

